

大津のことがもっと好きになる情報誌

広報 おおづ

12 DECEMBER 2018



フォトレポート

第30回からいも

フェスティバル in おおづ



今月のみどころ

特集

シリーズ障害福祉 ③

共感を共生に

今月の表紙

第30回からいもフェスティバル in おおづ、いも掘り大会で一コマ。掘ったからいもを手に子どもたちの笑顔が輝いていました。6～7頁で紹介しています。

Public relations
OZU TOWN



10月29日大津高校文化祭で行われたビブリオバトルで、「かがみの孤城」(辻村深月著/ポプラ社)を紹介する豊住さん。冒頭から質問を投げかけて聴衆を引きつけ、「傷ついている人を包み込むような温かさがある。読めばきっと心揺さぶる何かに出会えるはず」とこの本の魅力を紹介しました。おおづ図書館では中学生を対象としたビブリオバトルの大会を予定しています。詳しくはおおづ図書館へお問い合わせください。



Clozu-up Ozu-jin

クローズアップ 大津人

広報 おおづ 2018 12

発行・編集 大津市・総務課
〒869-1292 熊本市東区大津町大字大津 1233 番地
TEL.096(293)3111 <http://www.town.ozu.kumamoto.jp/>

印刷 印刷 印刷株式会社
〒869-1292 熊本市東区大津町大字大津 1233 番地
TEL.096(293)3111 <http://www.town.ozu.kumamoto.jp/>

UD
FONT
易やしく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

「一人でも多くの人に 心を揺さぶる何かに 出会ってほしい」

とよしみ まい
豊住真衣さん (室)



8月19日に熊本森都心プラザで行われた「全国高校ビブリオバトル2018熊本県大会」。県内6校から6人が参加した本大会で優勝した、大津高校3年の豊住真衣さんにクローズアップする。

「私、本当は人前で話すのは苦手なんです」と豊住さん。高校2年生のとき、先生から薦められたことでビブリオバトルと出会った。ビブリオとは、ラテン語で「書籍」。平成19年に生まれたビブリオバトルは、「ビブリオバトル」(発表者)が好きな本を持ち寄り5分間で紹介。聴衆が「一番読んでみたい」と思った本に投票してチャンプ本を決める、ゲーム要素を取り入れた新しい書評合戦のこと。

母の読み聞かせが好きで、物心ついた時から自然と読書が好きになった豊住さん。しかし、「好きな本を紹介する」ことが、「読みたい」と思ってもらうために紹介する」となると難しくなる。物語の核心を伏せながら、いかにその本に興味を持ってもらうか。バトルに参加すると決めてからは、構成を練って暗唱、練習に励む日々となった。

初めこそ戸惑いの連続だったが、ビブリオバトルに出場して自分に投票してもらえたとき、「自分の思いが伝わったんだ」と、心の底からうれしかった」と顔をほころばせる。

ビブリオバトルの参加者はバトルだけでなく、聴衆も重要な参加者だ。本が好きな人、普通の人、そうでない人、誰でも参加できるのも魅力の一つ。「会場にいるみんなで作りたい、その感覚が好きですね」豊住さんはほほ笑む。他のバトルと出会い、自分の世界が広がるのも大きな魅力だという。

「ビブリオバトルを通して多くの人や本と出会えました。ドキドキの挑戦だったけれど、1人でも多くの人に心揺さぶる何かに出会ってほしい」とまぶしい笑顔を見せてくれた。

現在高校3年生。進学を希望しているが、ビブリオバトルは続けるという。彼女がこれまでに得たもの生かし、次はどんな本の魅力を紹介してくれるのか、とても楽しみだ。

からいもくん便り

大津町総合情報メール
携帯電話やパソコンのメール機能を活用して、生活に役立つさまざまな情報をお知らせするシステムです。

登録方法: ozutown@gw.ansin-anzen.jpに空メールを送信してください(スマートフォンの場合は件名に任意の1文字「あ」などを入力して送信)。

▼16頁の「中窪田初神社875年祭」25年に1度、みこしがでる▼
▼25年前の祭時は20代だったもんなー! 目線の先にみこしの綱を引く子どもたちの姿。次の祭は25年後には大人になっていく▼
▼からいもフェスティバルも30回目。伝統を「つなげる」覚悟と愛情に言葉がでませんでした(MOMO)
▼シリーズ障害福祉では多くの皆さんにご協力いただきました▼取材を通して感じたことは、相手を「知る」ことが大切▼得意なこと、苦手なこと、知ることで相手を理解する第1歩になる。全ての人との関わりで共通することだと感じました▼これからも知ることを続けていきたいです(UE)

こころの声